

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

志の高いリーダーを育成する学校
「世のため人のため、世界のため」という社会貢献意識を強くもち、気品に溢れる、情操豊かな生徒を育て、その進路実現を叶える学校
めざす学校像を4つのキーワードで示す。
「鍛える」…生徒が互いに励ましあい支えあいながら切磋琢磨し成長できる学校
「究める」…グローバル社会で活躍できる高い学力をつける学校
「繋がる」…互いの違いを認め合う豊かな人間性を醸成する学校
「描く」…将来にわたる社会との繋がり方を描き、社会的貢献できる人材を育成する学校

2 中期的目標

1 グローバル社会を生き抜く高い学力を育成する

(1) 計画的に学力向上に取り組むスキームと、生徒自身が学力向上のプロセスと進捗を確認できるツールの確立。

A 「振り返りシート」を活用したPDCAサイクルによる学力の向上。

B 学力定着度を測るための指針としての全国模試の活用。

【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H29:51%→:80%)

学力生活実態調査・全国模試等における学力レベルの維持。(各学年入学時のレベルを維持する)

(2) 授業改善

C アクティブラーニングの推進による読解力・思考力・表現力の育成。

D 生徒による授業評価の活用。教員の互見授業、研究授業を含めた教科内研修の推進。外部者への授業公開。

【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(すべての項目で各年度とも前年度より3%ずつ毎年向上)

(3) 組織的課外講習・補習の実施

E 各教科・進路指導部・教務部が連携した、課外講習・補習の学年ごとの講習の更なる充実。

【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H29:86%→85%超維持)

(4) 自学自習力の育成と自習環境整備

F 学習室の整備と生徒への自習室活用方法の周知徹底。

【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H29:76%→:80%)

2 高い志をはぐくみ、すべての生徒の進路実現をめざす

(1) 生徒に自らの将来像を描く力を育成し、モチベーションの高揚を図るキャリア教育の充実。

G 社会で活躍している卒業生や第一線で活躍している人材による講話の充実。

【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H29:86%→:85%超維持)

(2) チーム泉陽による生徒支援体制の確立。

H 入試問題・入試動向の研究と全国模試の分析。統合ICTを活用した情報の共有化。

I 進学指導能力向上のため、教員による模試・学力生活実態調査の結果分析会の充実。

【目標】生徒・保護者向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H29:生徒82、保護者88%→:85%超維持)

現役で国公立大学に合格する生徒の在籍者数に対する割合(H29:33.1%→:40%)

Q SC等の外部人材の活用による教育相談体制の見直し。迅速な生徒情報の共有化。

【目標】不登校生徒、長欠生徒を0にする。(H29:14人→:0人)

(3) 読書活動を推進し幅広い教養を育成する。

J 朝読や授業での、学校推薦図書「泉陽の500冊」の活用による読書習慣の確立。

【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H29:47%→:70%)

3 人としての豊かな見識と情操を育てる

(1) リーダーシップ、パートナーシップ、協力協働の社会的精神の醸成。

K 充実した部活動の持続と学習時間の保障。

【目標】部活動参加率90%超を維持しながら基礎学力の向上をめざす。(学力生活実態調査における学力・学習平均レベルA3に)

L 「自主的な学校行事」の促進と生徒による広報活動の充実。

【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H29:94%→90%超維持)

M 清掃活動等、ボランティア活動の推進。

【目標】「一部活動一社会奉仕運動」の実現。

(2) 生活指導や学校教育活動全般を通じた、豊かな人権感覚、望ましい生活態度、社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成。

N 教育活動全体を通じた人権感覚の醸成。

【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H29:70%→:80%)

O 「遅刻ゼロ」運動、「自分からあいさつ」の推進。

【目標】遅刻総数の減少(H29:2409回→:1150回)、生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H29:93%→90%超維持)

P 話をきちんと聞き、内容を理解した上で考えを的確に伝えることのできる力の育成。

【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H29:68%→:80%)

4 チーム泉陽として課題解決にあたる教員集団の確立

(1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む雰囲気醸成。

【目標】教職員向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H29:63%→:80%)

(2) 質の向上・平準化による業務の効率化。

【目標】教職員の時間外労働を前年度より減少させる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習活動等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は教員相相互の授業見学や授業力向上研修等を行い、教員の授業力向上に取り組んだ。「教材や教え方に様々な工夫をしている先生が多い」に対する生徒の肯定的な回答が昨年の 78%からさらに 4%増加し今年度は 82%となった。一定の成果をあげることができた。 ・一方で「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会が多い」に対する肯定的な回答が教員では 84%であるのに対して、生徒では 59%となっている。25%の差がある。生徒の捉え方を把握し深い学びにつながる授業について全体で取り組む必要がある。 <p>【進路指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導に関する肯定的回答は、生徒・保護者とも 85%を超え、前年度比でもほとんどの項目で肯定的回答が増加している。生徒・保護者とも進路に関する意識の高さが伺える結果となった。 ・一方で、「社会で活躍するリーダーの話聞くことは有意義である」の教員の肯定的回答が 67%と前年度より 7%減少している。進路セミナーや講演の内容のさらなる工夫が必要である。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活についての先生の指導には理解できる」の肯定的回答は生徒 83%・保護者 87%と昨年同様高い値となった。また、今年度の重点項目である、教育相談に関する教員の肯定的回答は昨年の 68%から 16%増加し、今年度は 84%となった。一定の成果を上げることができた。 ・一方で、「清掃活動が行き届いていて清潔である」に対する生徒の肯定的回答は昨年より 3%増加したものの、47%と低い。また、「本校の施設・設備は、学習環境として適切である」に対する教員の肯定的回答も昨年より 12%増加したものの、39%と低い。施設・設備の老朽化の影響もあるので、府の関係部署と調整する必要がある。 <p>【自主活動等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動や学校行事に関する項目の肯定的回答は、生徒・保護者とも 90%を超える高い値となった。この値を維持するためには、生徒を指導する教職員の負担軽減や業務の平準化に取り組む必要がある。 ・読書に関する項目の保護者の肯定的回答は 87%、教員は 88%と高い値になっている。 ・一方で、生徒の肯定的回答は前年度より 5%上昇したものの、52%となっている。朝読の見直しや生徒図書委員会を活用した取り組みを考える必要がある。 	<p>第 1 回 (7/18)</p> <p>○H30 年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談体制に重点をおくことについて、子どもたちの心の支援についての取り組みは進学校でも大切なこと。 ・発達障がい等に関する事を、先生たちはどれだけ学んでいるか気になる。職員への研修支援が必要。 ・小中学校でも朝読の活動を行っているが、読書習慣が浸透しない現実がある。高校で、読書活動を目標におくことは重要。 ・先生方の時間外労働を減らすためには、どの時間を減らすのか、部活動の時間はどうなるのが課題。 ・評価指標に基づいて、組織的に具体的・計画的に取り組むことが重要。 <p>第 2 回 (11/26)</p> <p>○授業見学について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 年英語表現の授業については、先生の発音が素晴らしかった。先生方の英会話のレベルが高くなっている印象をもった。 ・2 年数学Bの授業については、アクティブ・ラーニングの視点で授業展開できている。グループ学習はアウトプットをしっかりとできることにつながる。 ・3 年現代文の授業については、現代文を構造的に分析し、ロジカルな授業展開をしていた。先生自身の話術や表情に魅力が溢れていて、もっと授業を聞きたくなった。 <p>○学校経営計画の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十分な種類および量の講習とを感じるが、先生方の過度な勤務とならないように配慮も必要。 ・先生方の負担軽減のためにも SSW の導入をぜひおこなってほしい。 ・福祉につなぐという意味で、府だけでなく堺市(区)の福祉担当者などとも連携していくことが大切。 <p>第 3 回 (3/20)</p> <p>○学校教育自己診断結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの質問で肯定的回答が 80%を超えており、学校がしっかり取り組んでいる様子がうかがえる。 <p>○平成 30 年度学校経営の評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度新たに設定した教育相談体制の見直しや迅速な生徒情報の共有により、遅刻・欠席者数が減少したことは評価できる。生徒が長期欠席に入る前に何らかの手立てができたことは大変有効である。 ・教員の時間外勤務時間は昨年より約 11 時間減少している。ノークラブデーの設定や産業医による面談、該当教員への個別の声掛けによる成果は大きい。 <p>○平成 31 年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程に関わること、高大接続や進路実現に関わること、部活動の在り方や働き方改革に関わることを踏まえた計画について承認する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 グローバル社会を生き抜く高い学力を育成する	(1) 学力向上の進捗を確認できるツールの確立	(1) A 「振り返りシート」を活用したPDCAサイクルによる学力の向上。 B 学力定着度を測るための指針としての全国模試の活用。	A B 生徒向け自己診断「振り返りシートをきちんと活用している」前年度 51%を 60%に。	A B ・生徒向け自己診断「振り返りシートをきちんと活用している」前年度 51%から 44%に減少した。振り返りシートを見直す必要あり。 (△)
	(2) 授業改善	(2) C 各教科における効果的なアクティブラーニング(AL)の在り方について研究し、授業で実践する。 D ・授業アンケートで高い評価を得ている教員による示範授業を実施する。 ・全教員が互見授業を年2回実施し、評価シートを活用した本人へのフィードバックを行う。 ・各教科での研究授業だけでなく、教科を超えたテーマ(ICT、AL、座学、実技)による研究授業を実施する。	C 生徒向け自己診断「自分の考えをまとめたり発表する機会が多い」前年度 56%を 70%に。 D 生徒向け自己診断「社会に有為な人材を育成しようとしている」84%、「学力向上、自主活動の充実、気品ある生活態度の育成は実現されている」82%、「進度や難易度が適切な授業が多い」83%、「教材や教え方に様々な工夫をしている先生が多い」78%(それぞれ前年度)の 80%超維持。	C ・生徒向け自己診断「自分の考えをまとめたり発表する機会が多い」前年度 56%から 59%に増加。 (△) D ・生徒向け自己診断「社会に有為な人材を育成しようとしている」82% (○) ・「学力向上、自主活動の充実、気品ある生活態度の育成は実現されている」76% (△) ・「進度や難易度が適切な授業が多い」85%(◎) ・「教材や教え方に様々な工夫をしている先生が多い」82% (○)
	(3) 講習・補習の組織化	(3) E ・教科・学年・学校全体としての組織的課外講習を実施する。 ・各教科で最終目標を設定した上で、授業以外に必要な内容を講習として設定する。	E 生徒向け自己診断「講習は役立っている」85%超の維持。	E ・生徒向け自己診断「講習は役立っている」86%。 (○)
	(4) 自習環境の整備	(4) F ・学習室(図書館を含めて)を整備し校内で自習可能な環境を確保するとともに、さらなる活用に向けた生徒への啓発を行う。	F ・生徒向け自己診断「休日の学習室の開放は役立っている」前年度 76%を 80%に。 ・自宅学習時間の前年度上位学年に対する時間の増加。	F ・生徒向け自己診断「休日の学習室の開放は役立っている」74%。 (△) ・自宅学習時間の前年度上位学年に対する時間: 1年生平日+21.7%休日+22.9% 2年生平日-6.2%休日-6.8% 3年生平日+2.9%休日-0.9% (○)
2 高い志を高くみ、すべての生徒の進路実現をめざす	(1) 将来像を描く力の育成	(1) G 生徒のロールモデルとなる卒業生や社会の第一線で活躍している人材による講話を拡大して実施する。	G 生徒向け自己診断「進路指導は将来の進路や生き方について考える上で役に立つ」80%、「社会で活躍するリーダーの話聞くことは有意義である」84%(それぞれ前年度)の維持。	G 生徒向け自己診断「進路指導は将来の進路や生き方について考える上で役に立つ」82%、「社会で活躍するリーダーの話聞くことは有意義である」87%。 (◎)
	(2) チーム泉陽による生徒支援体制の確立	(2) H ・入試問題研究・入試動向研究を継続する。 ・全国模試の分析を進路指導部で行い統合 ICT を活用して情報を共有する。 I ・教科での分析と合わせて業者に頼らない教職員研修を実施して情報の共有化と教員の進路指導能力の向上を図る。 Q SC等の外部人材の活用による教育相談体制の見直し。迅速な生徒情報の共有化。	H I ・現役国立大学合格者の在籍者に対する割合を 40%以上に。 ・自己診断「各種説明会や大学の見学会は進路を選択する上で役に立つ」生徒 89%、保護者 97%の維持。 Q 不登校生徒、長欠生徒を 0 にする。	H I ・現役国立大学合格者の在籍者に対する割合 32.4% (△) ・自己診断「各種説明会や大学の見学会は進路を選択する上で役に立つ」生徒 90%、保護者 97%。 (○) Q ・今年度の総欠席日数 4764 日で昨年比 21%減少。(H29 年度 6000 日) (○) ・欠席 30 日以上生徒は 18 人で昨年比 42%減少。(H29 は 31 人) (○)
	(3) 読書活動の推進	(3) J 教科の学習活動に学校推薦図書「泉陽の 500 冊」を活用するなど、アプローチの仕方を工夫して生徒の意欲の向上を図る。	J 生徒向け自己診断「読書する習慣がある」前年度 47%を 60%に。	J ・生徒向け自己診断「読書する習慣がある」52%。 (△)
3 の豊か として 人	(1) 協力協働の社会的精神の醸	(1) K 進学校にふさわしい学力保障を前提に、部活動に打ち込める環境づくりに努める。	K 生徒向け自己診断「学習・部活動の両立ができてい」前年度 67%を 70%に。	K ・生徒向け自己診断「学習・部活動の両立ができてい」70%。 (○)

府立泉陽高等学校

成		L 「自主的な学校行事」が行えるよう、学校行事に対する生徒の自主的関与をさらに深める工夫を行う。	L 生徒向け自己診断「文化祭・体育祭は生徒の力で自主的に運営されている」95%の維持。	L ・生徒向け自己診断「文化祭・体育祭は生徒の力で自主的に運営されている」96%。 (◎)
		M 実績のない部活動に参加を呼びかけるなど、部活動ごとのボランティア活動を推進する。	M 部活動1部1つ以上のボランティア活動の実施。	M ・部活動1部1つ以上のボランティア活動を実施。 (◎)
	(2) 社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成	(2) N ・各学年2回以上人権HRを実施する。 ・可能な教科・科目で、人権をテーマとした体験学習を実施する。	N 生徒向け自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」前年度70%を80%に。	N ・生徒向け自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」前年度76%。 (○)
		O ・「遅刻ゼロ」運動と全校統一の指導を行うことにより不必要な遅刻を限りなく減少させる。 ・「自分からあいさつ」を推奨するため、教職員が率先してあいさつを行う。 ・清掃活動の徹底により校内の美化に努める。	O ・遅刻総数を1150回に。 ・生徒向け自己診断「あいさつやマナーを守る指導を行い、モラルを守る態度を育てようとしている」90%超維持。 ・生徒向け自己診断「本校は清掃活動が行き届いていて清潔である」前年度44%を60%に。	O ・今年度の遅刻総数は前年度比31%減の1658回。(H29年度2409回) (○) ・生徒向け自己診断「あいさつやマナーを守る指導を行い、モラルを守る態度を育てようとしている」89%。 (△) ・生徒向け自己診断「本校は清掃活動が行き届いていて清潔である」47%。 (○)
		P ・授業でのALに限らず、行事等の自主運営などさまざまな機会を活用し、きちんと人の話を聞くことのできる力、自分の考えを適切に相手に伝えることのできる力の育成に努める。	P 生徒向け自己診断「論理的にものを考える力、自分の考えを的確に伝える力が身についた」前年度68%を75%に。	P ・生徒向け自己診断「論理的にものを考える力、自分の考えを的確に伝える力が身についた」65%。 (△)
	課題解決にあたる教員	(1) 全員で取り組む雰囲気醸成	(1) Q 進学校にふさわしい学力保障を前提に、部活動に打ち込める環境づくりに努める。	Q 教職員向け自己診断「学校の教育活動について、教職員が日常的に話し合っている」前年度63%を65%に。
(2) 質の向上・標準化による業務の効率化		(2) R 進学校にふさわしい学力保障を前提に、部活動に打ち込める環境づくりに努める。	R 教職員の時間外労働を前年度より減少させる。	R ・教職員の時間外労働時間の平均はH31年2月末時点で35時間10分。昨年度より約12時間減少。(H29は47時間05分) (◎)